



猫口腔内疾患へのアニマルレイキの応用について

湯浅裕子

我が家では、最年少は2歳から最高齢の16歳まで12匹の猫を飼っています。そのうち10歳以上のシニア猫4匹が慢性腎不全と診断され、この子達の体を少しでも楽にしてあげたいと思い、アニマルレイキを始めることにしました。

今回は、シニア猫の中でも口腔内疾患が原因で食欲が落ち、体重も減ってしまった愛猫にアニマルレイキをした経過と気づきについて発表したいと思います。

Fluffy、雄、推定15歳。野良猫でしたが、ご縁があって11年前にうちの家族になりました。既往歴ですが、出会ったときから猫エイズ陽性、尿結石、膀胱炎を繰り返し、病院のお世話になることも度々でした。尿結石や膀胱炎については2年前に手作り食に変えてからは全く出なくなりました。また、数年前から原因不明の口元が腫れる症状がときどき出ます。去年12月1日から3日間、歯肉と口唇の腫れが原因で食欲廃絶となり、全くゴハンを受け付けなくなっていました。

若い頃5キロ以上あった体重は徐々に減り、最近は4キロ前後を保っていました。毛の長い子なので分かりづらいのですが、体を触ると骨ばっていておなかにたるみはありません。これ以上の体重減少は避けたくて、4キロキープを目標にし、実際3.9キロから4.1キロの体重を保ってきました。12月の食欲廃絶で体重はこれまでの最低3.7キロに減少してしまったので、強制給餌をし、その後アニマルレイキを試みました。

最初は強制給餌が嫌で唸り声をあげていましたが、アニマルレイキを始めると唸り声は段々小さくなりました。そのうち膝の上でリラックス状態となり、そのまま30分アニマルレイキをさせてくれたのです。肩から腰まで体中どこを触ってもピリピリとした振動に加えチクチクと針で刺されるような痛みも感じました。口の回りを触ると熱くて、ピリピリとした細かい振動を感じました。アニマルレイキを終えると、Fluffyは好物のフード（85グラム入）をもの凄い勢いで完食したので、アニマルレイキで食欲が出て目標体重をキープできるのではないかと考え、試してみることにしました。

Fluffyへのアニマルレイキは口と体に行いました。口へのアニマルレイキは、後方から顎を包むように手をあてたり、前方からあてるやり方で、1回に10分から20分行いました。Fluffyの様子ですが、顔を左右に動かすことはあるものの、嫌がる様子はなくおとなしくやらせてくれました。アニマルレイキは気持ちよくて効果のあるものだと言猫自身が感じているようです。

体へは主に腎臓を中心とする部分に1回10分から20分、特に調子が悪そうときには60分行いました。もう何度もアニマルレイキを行っているのですが、体に手を触れると、Fluffyは力を抜いてリラックスモードになるのが分かります。

アニマルレイキの効果を確かめるために1週間ごとに体重測定をし、Fluffyの行動についても観察してみることにしました。強制給餌の翌日から1週間、トータルで120分アニマ



ルレイキを行ったところ、体重は3.7キロから3.9キロに増えました。次の1週間はあまりアニマルレイキができずトータルで60分だったところ体重は3.7キロに落ちてしまいました。そこでアニマルレイキの時間の長さと体重が比例するのではないかと考え、継続して記録をとることにしました。

6週間観察したところ、最初の3週目まではアニマルレイキ時間が多ければ体重は増え、時間の長さと食欲が比例すると言えそうでしたが、5週目からは時間が長かったにも関わらず、逆に体重は減ってしまい3.6キロになってしまいました。この間のFluffyの様子はゴハン待ちをして一口食べるのですが、「ぎゃ」と声をあげて食べるのをやめてしまいます。ゴハンに興味を示し、匂いを嗅ぐけれど食べるのをあきらめてしまうという様子を見せていました。そこで、動物病院で診察を受けたところ、奥歯が抜けた跡に食べ物があると痛がるのが分かりました。食欲があっても食べられないということもあったのです。食欲がある＝体重増加と考えていたのですが、必ずしもそうではないと気づきました。

Fluffyの行動を食欲だけでなく活力の面からも観察し記録してみました。食欲は朝と夜のゴハン待ちをするかどうか、活力は外へ出たがるかどうかで判断しました。この子はゴハンを食べたいときはキッチンの決まった場所で待ち、外へ散歩に出たがる時は玄関でドアが開くのを待っています。逆に元気のないときは他の猫を避けるように寝室の布団の上で丸まって一日中でも寝ています。

結果、体重に関しては、目標体重である4キロには達していません。食欲があっても口腔内の状態により食べられないことがあるので、この結果は止むを得ないと思います。食欲と活力に関しては、アニマルレイキ後、ゴハンを要求しよく食べたり外へ出たがるといった行動の活発化が見られました。それから思わぬ副産物があったのです。アニマルレイキをしていると回りに他の猫たちが集まって来ることに気づきました。部屋のあちこちにいた猫たちが、そろりそろりと寄ってきて、目を閉じてリラックス状態になっているのです。アニマルレイキは手を当てている子を癒すだけでなく、猫達にとって心地のいい空間を作っているのだと思います。中にはアニマルレイキをしている私の膝や背中に乗ってくる子もいます。次は私にアニマルレイキをしてね。と言わんばかりにアピールしているのです。

まとめますとアニマルレイキを行って次のような効果や特徴が見られました。

- ① 慢性腎不全のシニア猫達に良い効果が出ている。
- ② アニマルレイキは短時間で効果が現れる。
- ③ 私と猫達との関係がさらに近づいた。

一例を挙げると、3年間の外猫生活をしていたランを家の中に入れたのですが、警戒心が強く3年かけてやっと背中を触らせてくれるようになっただけでした。この子にアニマルレイキをしてあげたら、ニャアニャア鳴きながらすり寄ってくるようになり、鼻と鼻をくっつける鼻挨拶もしてくれ、膝に乗せることもできるようになりました。

- ④猫同士の関係もよくなった。

ショコラという猫がいます。仲間外れ状態、時々他の猫から追いかけるいじ



ANIMAL REIKI ASSOCIATION
Harmonize the Earth with Animal

められっ子だったのですが、アニマルレイキを始めてから、いつの間にかみんなと並んでごはんを食べるようになったり、一緒に固まって寝るようになっていました。

アニマルレイキを始めるきっかけになった慢性腎不全のシニア猫達は体調がすぐれず寝ていることが多いのですが、アニマルレイキをしてあげると気持ちよさそうにしてくれて、その様子を見ている私も満たされた幸せな気持ちになります。そして、「ここにいてくれてありがとう」という感謝の気持ちが沸いてくるのです。猫達とも家族としての絆を深めることができ、私も幸せを感じられてアニマルレイキを始めて本当に良かったと思っています。これからも愛猫たちへのアニマルレイキを通して、よりよい健康状態を保ちお互いが幸せだと感じられる生活を送っていきたいと思います。

↓アニマルレイキをすると、周囲に猫たちが寄ってくる



←アニマルレイキ中の様子↑